

児童一人一人の特性や願いをとらえて不安や  
つまずきに対処すること、児童の思いに教師が  
寄り添い、表現を見守ることである。ここでは  
調査結果や表現傾向などを個人カルテに累積し  
て活用したり、学習カードに思いや反省を記録  
させたりして指導に生かしたい。

(3) 「主体的に造形活動に取り組む」とは  
自分の思い（主題）を持ち、知りたいことや  
やりたいことをはっきりさせて積極的に表現す  
ることである。

### Ⅲ 研究の実際と考察

#### 1 検証授業計画

(1) 題材名 わたしだけの空と風（絵に表す）

(2) 検証の観点

① 自由な発想と多様な表現のできる題材の  
設定は、自分らしい表現を促し、満足感を高  
めることができたか、児童の活動の様子や学  
習カードから考察する。

② 学習カードや個人カルテは、児童一人一  
人の特性や願いをとらえ、思いを大事にした  
支援をすることにつながったかを児童の活動  
の様子や学習カードから考察する。

#### 2 検証授業のねらいと意図について

【検証授業1】2・3／8時

(1) 本時のねらい

自分のイメージを大切に、表現の構想を  
練ることができる。

(2) 本時の意図

自分らしい表現の構想を立てる段階において  
自由な発想に対応できる多様な表現が可能な画  
用紙づくりを取り入れ、試行錯誤を含めて自由  
な活動を保証すれば、より自分らしい表現を求  
めて、意欲的に取り組むであろう。

【検証授業2】4・5／8時

(1) 本時のねらい

かきあがった空の印象をもとに、自分の心に  
ある風景を表現することができる。

(2) 本時の意図

自分の心を形や色で表現する段階において、  
アイデアスケッチや表現計画を取り入れてイメ  
ージを具体化すれば、見通しを持って主体的に  
表現に取り組むであろう。

#### 3 指導の概要

(1) 自由な発想と多様な表現のできる題材の  
設定

① オリジナル画用紙づくりについて

（検証授業1）

前時において、既に画用紙づくりに必要な用  
具や技法は試している。まず、めあてと各自の  
取り組む表現技法を確認して、活動に移った。  
児童はすぐに様々な用紙や用具、材料の中から  
自分のイメージに合うものを選択し、取り組ん  
だ。表現方法は、マーブリング・にじみ・吹き  
流しなどが中心だが、複数组み合わせたり、用  
具を様々に使い分けたりすることで、多様な表  
現が可能になった。中には、納得するまで何度  
もやり直しをしたり、また、活動していく中で  
ぼんやりしていたイメージが確かなものになり  
表現方法を変えたり、新たな課題に気づき、工  
夫を重ねたりする姿も見られた。教師側として  
は画用紙全体に表現させることを考えていたが  
実際には、全体の構想を考えて必要な部分だけ  
に彩色している児童も見られた。（30％）学習  
カードの反省を見ると、「思い通りに進んでい  
る、うまくいった」が64％あった。その一方で、  
思い通りではなかったが逆に生かそうとする姿  
勢も見られ、前向きに取り組んでいた。